

「明星」初期論序説

尾崎 左永子

与謝野鉄幹を中心とする詩歌結社「東京新詩社」が、機関誌「明星」を創刊したのは明治三十三年四月のことであった。最初は新聞

型十六ページの簡素なものながら、和歌革新の意気に支えられ、六号に至って四六倍判六十八ページの堂々たる雑誌となり、消長を経つつも明治四十一年十一月の百号終刊に至るまで、詩歌壇に大きな影響を与えつづけた。その後大正十年の第二次「明星」、昭和二十二年の第三次「明星」の発刊があったが、いずれも影響力はもたなかった。

ここでいう「明星」は第一次の百号までを対象とするが、その「初期」とは、創刊号から、「明星」の声価のようやく確立した明治三十四年末、「明星十八号」までの期間を筆者は想定している。紙数がないのでここでは

現在筆者が考えている「明星」初期の際立つた特色を列記することにとどめることをお許し頂きたい。

「明星」百号の活動期はたかだか十年の短期間にすぎなかった。しかし、その短期間に、千年の伝統をもち、その形骸化の中に束縛されていた和歌を、みごとに呪縛から解放した功績は奇蹟に近い。しかもその中から数多くの新しい作家たちを生み、その影響は単に短歌の分野に止まらず、文学全体、文化全体にも及んでいる。このような「明星」の、(1)短歌近代化の推進(2)文学運動としての意味(3)次代の文学の種を蒔いた母胎としての意義、などは、いうまでもなく基本的な特色といえる。しかしここでは、もう少しその特色を「初期」に絞って考察を加えたい。

(1)鉄幹自身のグローバルな視野 鉄幹の最初の短歌革新についての論説「亡国の音」(明27)では、鉄幹は他の短歌革新論と同様、「万葉に還れ」の方向をとっており、王朝和歌の形骸化から脱出するには「ますらをぶり」をとり戻すことだ、と論じている。しかし「明星」創刊時には一転して、ヨーロッパの文学に熱い視線を向けている。むしろ、ゲート、ハイネ、バイロンなどの詩の影響はすでに色濃く文学界に及んでいたが、それを伝統詩の中にとり入れようとする視野のひろさは、「明星」に新鮮な息吹きを与え、同時に青年たちの心的ニーズに応えることとなった。和歌を「国詩」と表現しているのも、英詩、独詩、仏詩に並ぶ詩としての考えによる。創刊号に梅沢和軒の「アストン氏の和歌論」を

掲載して英訳詩との比較を披露するなど、その配慮の底に、当時の和歌改良論とははつきり一線を引いた視野を感じさせる。

このことは鉄幹自身が、新詩社結成までの青少年期に、かなり深く漢詩文、經典、英語の素養を身につけていたことと無縁ではないだろうし、渡韓による政治的歴史的視野の拡大も影響があろう。いずれにしても、万葉の原点に戻るといふ日本の古典文化の中でのよみがえりの方向から、西欧風な象徴詩を浪漫調を積極的に採り入れる方向に転換したところに、「明星」発展の起点がある。

(2)自我の詩の自覚 鉄幹は「自我独創の詩」を強調し、同時に「新詩社は社友の交情ありて師弟の關係なし」と言い切った(新詩社清規)。このことはお稽古事として教養化していた和歌を、文学の域に解き放つきっかけとなり、短歌近代化の基となった。現代の短歌結社の現状よりも基本的にはむしろより新しい。

(3)素人性 最初の清規に「一、本社は専門詩人以外に和歌及新体詩を研究する団体也」とある。つまり既成の専門詩歌人は相手にしない、という所から出発している。前項とも関連するが、歌門に入って師から伝授をうけ

るといふ形でなく、ひろく文学愛好者の集合をよびかけたところに新機軸があり、鉄幹のすぐれた視点がある。素人を糾合するところに着眼したからこそ、既成歌壇から独立の新风を捲き起し得たのである。

(4)女性作家を先頭に立てたこと 素人の中でも、才能ある若い女性を優遇したことも、鉄幹の秀れたプロデュース感覚を示している。明治三十年代、まだまだ封建性のつよい社会であり、とくに上流社会の教養でもあった和歌は、古くて雅びなものとして一般には受けとられていた。しかし女性は、一旦これと信ずると、ほとんど一途に行動する。鉄幹は鳳晶子、山川登美子の才能を掘り出し、自信を与え、和歌の旧弊を一気に打破する車の両輪とした。二人の恋心を利してほとんど殉教的な女戦士に仕立てたのである。このことが後に結社内の反鉄幹の気運を生んでしまつたにしても、女流の力なくしては「明星」の強力な開花はあり得なかつた。晶子・登美子以外にも多くの女性が鉄幹に育てられ、同時に「明星」を支えた。

(5)絵画との連繫 「明星」は創刊号以来、一条成美、長原止水などの表紙・挿絵を多くとり入れ、後には藤島武二が長く協力した。

同時に写真や、図書票のデザイン、あるいはページごとのカット絵など、ビジュアルな面での配慮は当時としてはまことに斬新なものがある。黒田清輝、和田英作などパリ白馬会との交流が誌面を飾り、展覧会時評などもあつて、眼の広さに魅力がある。全体的にアール・ヌーヴォーのつよい影響下にあり、一条成美のカットは、流行のミュシャのポスターの丸写しであつた。八号の裸体画の複製は発禁の対象にもなつた。同時に、良質の紙を使った贅沢な組版も、ビジュアルな面で青年たちの心を捉えたのである。

(6)命名の巧みさ 鉄幹のネーミングは天才的で、日本的・古典的・伝統的なことばも、無条件に踏襲することなく、近代的フィリターを通して使う所があり、それぞれ時宜に適した斬新さをもつ。江戸の端唄風の「みだれ髪」の名称がのちにそのままモダンな感覚の歌集名として新生しているのもその一つである。

このような特色にささえられた初期「明星」は、当然のように時代の先端を、波を切つて船出していったのである。